

令和2年度佐渡市一般会計歳入歳出決算の認定について

総括

令和2年度は、年度当初に市長と議会が改選をした時期で、全国的に新型コロナウイルス感染症が拡がる状況下であった。新型コロナウイルス感染症から市民の命と健康を守ることを第一に、コロナ禍の厳しい条件の中で市民生活の安定や産業経済の振興などに取り組むことが政治の最大の責務であった。この新型コロナウイルス感染症対策や支援は、国の補正予算に対応した迅速な対応が求められ、当初予算議会以降、年度末までに臨時議会だけで6回開かれた年度であった。

また、合併特例債の活用期限が迫る中、合併特例債活用に伴う防災新庁舎建設や元年度から重要事項となっていた佐渡航路のジェットフォイル新造船等に新型コロナ禍による佐渡航路事業者の深刻な経営不振に伴う増資による支援と大きな課題への早急な対応が迫られた一年であったことが令和2年度の大きな特徴であった。

これらの難題に対し執行部は、通常の事業実施と感染症対策の事業等に迅速に対応しなければならず、いかにして市民が安心して生活できるかを一番に考え事業を構築し、市民から理解を得て事業実施に取り組んだと思料する。

なお、決算審査にあたって、議会としては、市民の期待に応える議会への議会改革等特別委員会の提言も受け、従来の特別委員会の構成を大きく変え、議長、議選の監査委員を除く19名の議員で特別委員会を構成し、3分科会でのこれまで以上に集中的に、なおかつ、深まる決算審査とし、次年度予算にも反映できる視点で行ったものである。今回のこの枠組みは、今年度の教訓を活かし一層充実させ、変えていく方向であることを議会として確認していることを申し述べ、意見書の報告を行う。